

9月19日

主教セオドル

Theodorus of tarsus

(602~690)

～イングランド教会を組織化～



タルソス

カンタベリー大司教で聖人。人名辞典などではテオドロスやシオドアなどと表される。

彼は7世紀の初めに小アジアのタルソスで生まれたギリシア人である。タルソスとアテナイで教育を受けた彼は、ギリシア学者として、そして神学者として活躍する。

そんな折、イギリス国土をペストが襲っていく。その中、セオドルはハドリアヌスと共に1年がかりでイングランドに渡り、無秩序な教会の状況を目の当たりにする。ハドリアヌスはセオドルをカンタベリー大司教に任命し、すでに67歳という高齢であったにもかかわらずセオドルは機知と強韌さによって諸改革をおこなっていく。

彼はハドリアヌスと共に、教区の設定をおこない、また、教理や規則を整理し、完成させる。さらに全国教会会議を主宰し、さまざまな事項を決定する仕組みを作っていく。

673年におこなわれたハートフォード会議では、司教たちの熱い信頼と支持を受けることに成功し、教会法規が受託される。そこでは復活日の典礼の統一や、司教区における司教と修道院の関係の確認、そして婚姻法の執行などがおこなわれた。

そして680年におこなわれたハットフィールド会

議においては、コンスタンチノーブルで生じた異端問題を受け、国内の問題だけではなく、世界的な事件にも目を向けるように司教たちの前でセオドルは発言する。そして「正統信仰宣言」を採択し、カンタベリーの首都大司教としての権威と、イングランド教会の統一を確立していく。

セオドルは、教会との和解を求める者にどのような悔い改めを課すべきか、あるいは結婚にまつわる諸問題、ローマ教会とケルト教会の関係など、様々な場面で意見を求められる。その見解は「海俊集」の中にまとめられていく。

690年に87歳で彼は死去するが、それまでの21年間、カンタベリー大司教として混乱状態のままだったイングランド教会を組織化し、自立させた功績は大きい。(Y)

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教セオドルを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン